

アトピー性皮膚炎で ブイタマー[®]クリームを お使いになる方へ

監修

いがらし皮膚科東五反田 院長
五十嵐 敦之 先生



鳥居薬品株式会社

目次

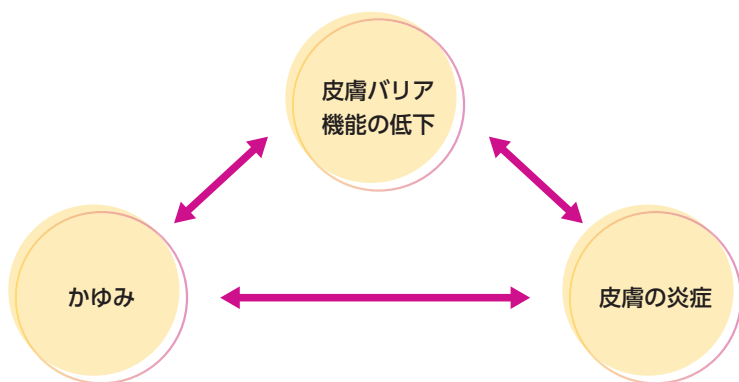
アトピー性皮膚炎について	2
ブイタマークリームのはたらき	4
ブイタマークリームの塗り方のポイント	5
ブイタマークリームを使用する際の注意	7
ブイタマークリームの副作用	8
保管方法	8
アトピー性皮膚炎の外用療法	9
治療のゴール	10

アトピー性皮膚炎について

アトピー性皮膚炎とは

アトピー性皮膚炎は、「皮膚バリア機能の低下」と「皮膚の炎症」と「かゆみ」が影響し合いながら、良くなったり悪くなったりをくり返す疾患です。

悪化サイクル



アトピー性皮膚炎では、皮膚バリア機能の低下により、免疫・アレルギー反応を引き起こすアレルゲン、化学物質が侵入しやすくなり、炎症やかゆみが生じます。

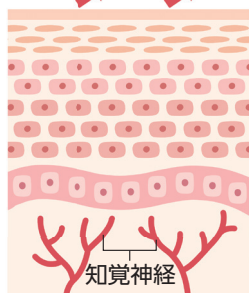
アトピー性皮膚炎

アレルゲン  化学物質 



健康な皮膚

アレルゲン  化学物質 



アトピー性皮膚炎について

アトピー性皮膚炎の治療

アトピー性皮膚炎の治療は、「薬物療法」、「スキンケア」、「原因・悪化因子の除去」の3つが基本になります。

1. 薬物療法

皮膚の炎症やかゆみを抑えます。

【外用薬】

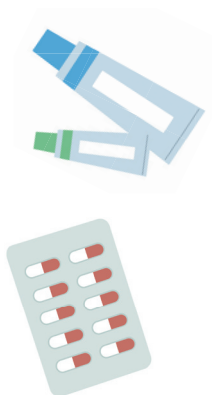
- 保湿薬
- ステロイド外用薬
- 免疫抑制外用薬
- ヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害薬
- PDE4阻害薬
- 治療用AhR調節薬

【内服薬】

- 抗ヒスタミン薬
- ステロイド薬
- 免疫抑制薬
- JAK阻害薬

【注射薬】

- 生物学的製剤



2. スキンケア

皮膚を清潔に保ち、保湿することで皮膚のバリア機能を保ちます。

- 皮膚の洗浄
- 保湿薬

3. 原因・悪化因子の除去

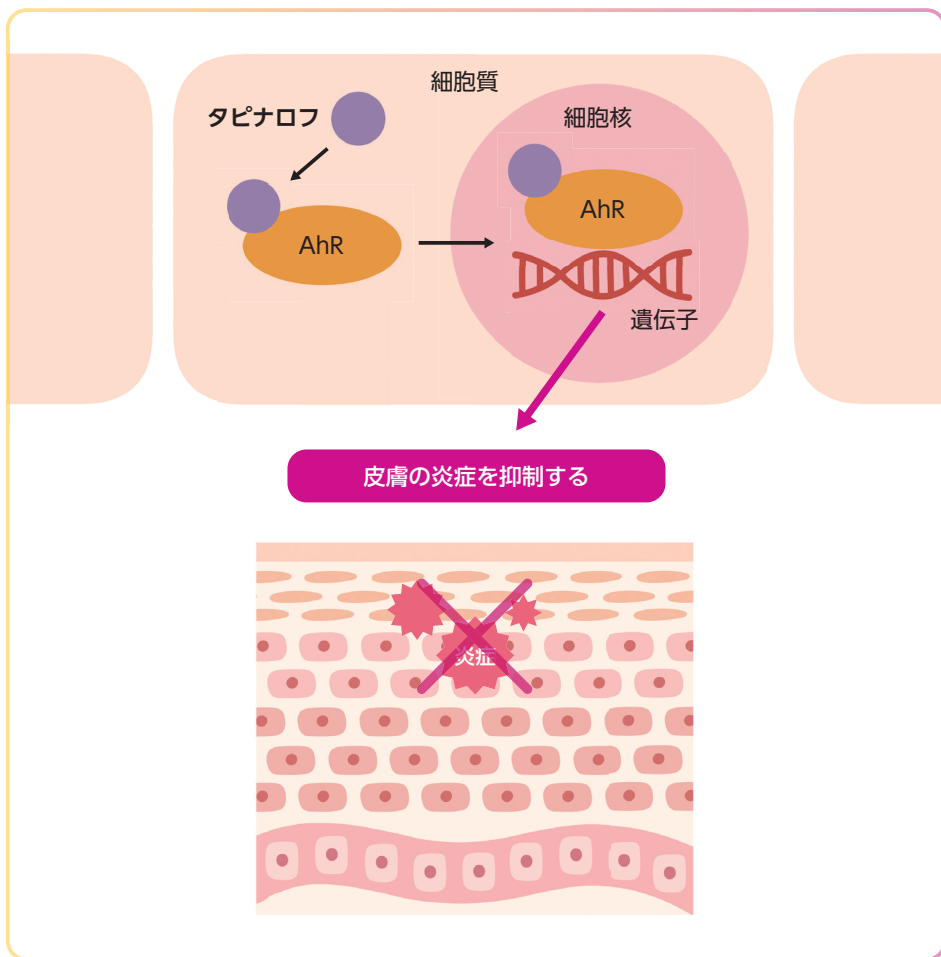
下記に示すようなアレルゲンや化学物質などが悪化因子として考えられています。また、ストレスなどの心理的要因が悪化の要因になることもあります。

- ダニやほこり、花粉、ペットなどのアレルゲン
- 化粧品や金属などの化学物質
- 唾液や汗、毛髪、衣類の摩擦など
- ストレスなど

ブイタマークリームのはたらき

タピナロフは、芳香族炭化水素受容体 (AhR) を活性化することにより、さまざまな遺伝子に働きかけ、皮膚の炎症を抑制します。

※タピナロフはブイタマークリームの有効成分です。



ブイタマークリームの塗り方のポイント

使用方法

ブイタマークリームは1日1回、適量を患部に塗ります。
お薬は、すり込まず、やさしくのばすようにしましょう。

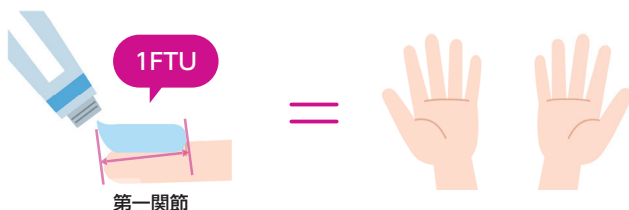
ティッシュが皮膚につく、または、皮膚がテカる
程度が、お薬の効果を発揮できる塗り方です。



使用量の目安

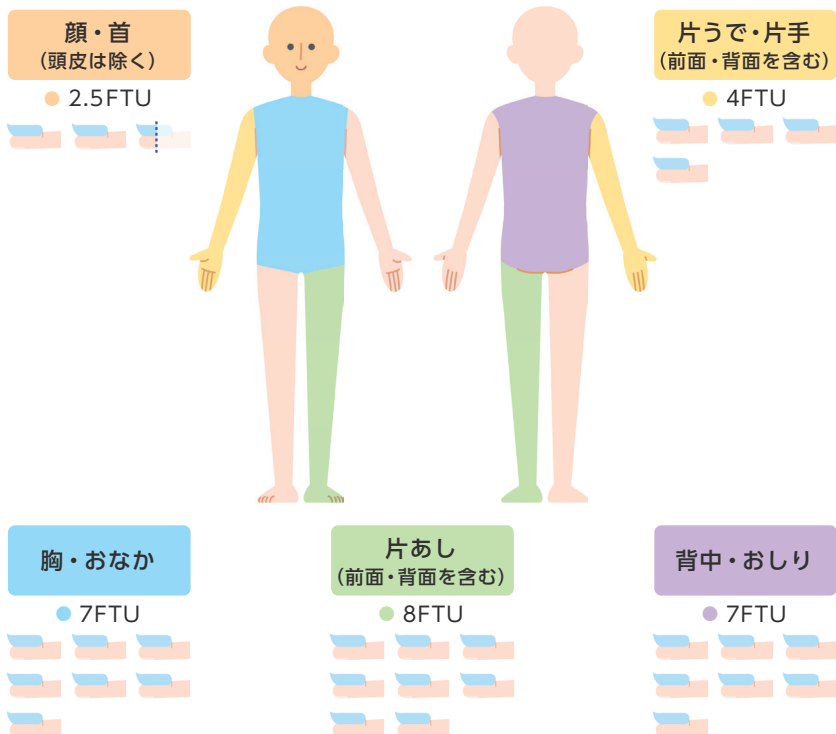
右の図は身体の部位別の使用量の目安を示しています。数値は目安です。
医師または薬剤師の指示に従って使用してください。

1 FTU* (人差し指の第一関節分) で手のひら約 2 枚分の面積に塗ることができます。



*FTU : Finger tip unit

身体の部位別・使用量の目安(成人)



参考：Long, C.C. et al. Clin Exp Dermatol, 1991, 16 (6). 444-447

皮膚の赤みは消えても、触ったときにザラザラしたり、乾燥している場合には、まだ皮膚の奥に炎症が残っている可能性があります。

「皮膚の状態が良くなった」と思っても自分の判断で塗ることを中断せずに、医師の指示に従いましょう。



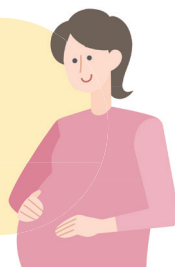
ブイタマークリームを使用する際の注意

使用できない方

これまでにブイタマークリームに含まれる成分で、過敏症と診断された方は使用しないでください。

使用に注意が必要な方

妊婦または妊娠している可能性がある方は、
医師に相談してください。



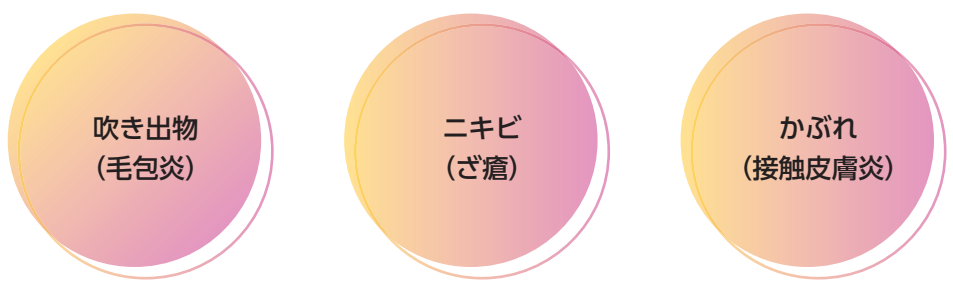
授乳している方は、医師に相談してください。
また、授乳している方が使用する場合は、
お薬を塗った乳首などを赤ちゃんが
舐めないように気を付けてください。



- ① 皮膚感染症のある方は医師に相談してください。また、使用する際は皮膚感染症と診断された部位を避けて使用してください。
- ② 粘膜(眼や口、鼻の中など)や皮膚の傷やただれがある部位を避けて使用してください。
- ③ 万一、眼に入った場合は、直ちに水で洗い流してください。
- ④ 8週間(2ヵ月)塗り続けても症状が改善しない場合は、医師に相談してください。

ブイタマークリームの副作用

ブイタマークリームの使用により、次のような副作用があらわれる場合があります。



吹き出物
(毛包炎)

ニキビ
(ざ瘡)

かぶれ
(接触皮膚炎)

上記以外にも、頭痛やアトピー性皮膚炎の悪化、色素沈着、刺激感などの副作用があらわれる場合があります。気になる症状がある場合には、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法

直射日光を避けて、室温(1～30℃)で保管してください。
子どもの手の届かないところに保管してください。

アトピー性皮膚炎の外用療法

アトピー性皮膚炎の治療は外用療法が基本となります。

患者さんの状態を確認しながら、患者さん一人ひとりに合ったより良いお薬を選択します。

治療は医師と患者さんが相談しながら進めます。

何か気になることや困っていることがあれば、医師に相談しましょう。



治療のゴール

アトピー性皮膚炎の治療のゴールは、「症状がないか、あってもわずかで、問題なく日常生活を送ることができ、お薬もあまり必要がない状態を維持する」ことです。

アトピー性皮膚炎は良くなったり悪くなったりをくり返す疾患です。

お薬を使わなくてもよい状態かどうか、症状だけで判断することは難しく、自己判断で治療をやめると悪化してしまうこともあります。治療を続けるかどうかは、医師に相談し、指示を守るようにしてください。



**あなたにとっての治療のゴールは何ですか？
記入してみましょう。**



「ぐっすり眠りたい」、「肌のことを気にせず好きな洋服を着たい」といった身近な目標を立てるのも、治療を続けていく励みになります。

- 本冊子の内容はWebサイトでもご覧になれます。

<https://www.vtama-patient.jp>



医療機関名